

支え合う

■2

甘い菓子の香りがいっばい広がる店内で、女性たちの明るい話し声が響く。利用者たちは週5日、三徳島市名東町3にある喫茶店「ほっとハウス」では、知的障害のある19〜43歳までの女性14人がはつらつと働いている。

喫茶店「ほっとハウス」

「落ち込

むことがあっても、みんなの顔を見ながらお菓子を食べると元気になるんよ」。そう言っって立ち寄る客も多く、店はその名の通り、客の心がほっと落ち着く癒やしの空間だ。

店のオープンは、2000年4月。松本千鶴代表(60)〓同市名東町2〓が中心となり、ダウン症の長女・幸子さん(36)を含めた知

障害者 地域と一つに

「販売網を拡大することでも広まれば」と願う。で、いろんな人と出会える。障害者への理解のきっかけづくりとして、喫茶店の



利用者ら〓徳島市名東町3の喫茶店「ほっとハウス」

運営などと並行して取り組んでいるのが地域での人権教育や交流活動。小学校や老人ホームなどで年5、6回、手話コーラスを披露したり、楽器を演奏したりする。徐々に成果は表れており、オープン当時に比べて、店内外であいさつを交わす人が増えてきているという。ボランティアとして利用者たちを支援する地域住民も頻りに店を訪れるようになってきている。

利用者に体操を教える今津勝広さん(68)〓同市国府町池尻、自営業〓は「孫のような、子どものようなみんなと触れ合つのが生きがい。手助けするつもりが、助けられてばかり。元気をもらっている」と笑う。

地域に溶け込み、住民とともに歩んできた小さな喫茶店。最初は店の中だけだった「支え合い」は、いつしか地域全体に広がっている。(地方部・吉松美和子)

移動編集局 徳島市

佐吉・加茂・加茂名